

92. 11. 下旬 出版ニュース

フィールドワーク

—書を持って街へ出よう—

佐藤郁哉著

社会科学のさまざまな分野で注目をあびつつある「フィールドワーク」について、その歴史や技法、その背景にある基本的な考え方について解説したもので、サブタイトルでいう「書を持って」とは、まだ誰も活字にしていないう第一次情報を報告しようとして、いきなり現地に飛び込んで行くのではなく、活字情報を活用して十分な下調べをしてから現地に出よう、という意味。

単純なことであるが、このことを忘れた「ホイキタ調査のたどこ面接」が以外に多く、インフォーマントと呼ばれる現地の情報提供者に迷惑をかけている。著者はそれを避けるための文献活用法を詳しく述べているが、コンピュータによるデータベース、アウトラインプロセッサを用いた検索・整理の方法も解説する。機器やさまざまなソフトのディスプレイ画面なども写真・図版を使って紹介しており、フィールドワークの基本と最新情報を知ることができる一冊である。(B6判・二三四

頁・一八五四円・新曜社)